

エゾネコノメソウの新産地

千歳市 若松 久仁男

ユキノシタ科ネコノメソウ属のエゾネコノメソウ *Chrysosplenium alternifolium* L. var. *sibiricum* Ser. は、北海道東部を中心に分布している。主な生育環境は湿原の周辺や水辺である（梅沢俊著「北海道の草花」2018）。

2018年4月25日千歳市内を流れる千歳川の市内から8kmほど上流の川原でエゾネコノメソウを見つけた。その川原は道路から4-5m降りたところにあり、湧き水が染み出して本流に注いでいる。

この場所は、秋から春にかけて時々野鳥観察に出掛ける場所で、小鳥が水浴びに来る場所でもある。この日、たまたま野鳥観察に行き双眼鏡でこの場所を覗いていたら大きめの黄色い花があることに気が付いた。あまり時間がなかったので、その時は望遠レンズで撮影だけして引き上げ、帰ってから確認するとエゾネコノメソウのように思えた。翌日再訪し、今度は川原に降りて近くで観察してみると間違いなくエゾネ

コノメソウだった。

千歳川のこの辺りは、護岸工事も行われておらずサケも遡上する自然度の高い場所なので人為的に持ち込まれたとは考え難いが、いつ頃からあったものなのか何かが運んできたものなのか気になるところである。



図2 この茂みの中でツルネコノメソウに混じってエゾネコノメソウが咲いていた



図3 この茂みに近づいて撮影したエゾネコノメソウ。周囲の小さな花はツルネコノメソウである



図1 4月26日 エゾネコノメソウの咲いていた千歳川の川原